

⑥6 二級河川小本川災害復旧助成事業

受賞機関 岩手県 沿岸広域振興局 土木部 岩泉土木センター

キーワード 県内最大規模、流域治水、整備効果発現、大規模流木捕捉施設、インフラツーリズムデジタルコンテンツ

全建賞審査委員会の評価ポイント

台風10号で被災した岩泉町小本川で、再度災害防止を目的として、総延長約50kmの河川改修を計画。県と地元が連携し、約8年で約23kmの整備を完了した。水理模型実験を活用し、効果的な大規模流木捕捉施設の設置等を含む大規模な河川改修等を、県・地元建設業者等が一体となって実施することにより、同規模の洪水に対して効果を発揮し、地域を守った点が評価された。

1. はじめに

小本川は、岩手県の北東部に位置し、北上高地の国境峠に源を発し、太平洋に注ぐ流域面積731km²、流路延長65kmの二級河川であり、小本川流域は、岩泉町がおおむね全域を占めている。

また、流域の土地利用状況は、山林が約90%を占め、宅地は岩泉地区や海岸部の小本地区の市街地、さらに小本川沿いに点在しており、全体の1%未満である。

平成28年8月の台風10号の豪雨により、小本川が溢水し、河川護岸の倒壊、家屋や田畑の浸水、国道455号の被災や橋梁の流失による交通断絶など、甚大な被害が発生した。

2. 事業の概要

小本川では、総延長約50kmに及ぶ県内最大規模の河川改修を計画し、うち小本川上流区間（22.8km）には災害復旧助成事業を導入した。河道の拡幅や掘削などを行い、流下能力を確保し、再度災害の防止を図った。

また、流木が橋梁部に堆積し、流れが阻害されて溢水したことにより、浸水被害が拡大したことを踏まえ、岩泉町市街地の上流に大規模流木捕捉施設を整備した。

一方で、平成28年の台風10号をはじめとする近年の激甚な水害や気候変動による今後の水害の激甚化・頻発



完成後

化に備え、小本川水系流域では、あらゆる関係者が協働し、流域全体で水害の軽減を図る「流域治水」に取り組んでいる。令和3年2月には、全国に先駆け「小本川水系流域治水協議会」を設立し、河川改修事業をはじめ、関係者による様々な対策を「流域治水プロジェクト」として体系的に推進している。

3. 事業の成果

令和6年8月の台風5号による豪雨では、平成28年と同規模の総雨量（251mm）であったが、治水対策の進捗が図られたことにより、浸水被害がなく（平成28年：床上723戸・床下121戸→令和6年：0）、整備効果を発現した。

また、全国的に事例の少ない流木捕捉施設の計画策定に当たっては、水理模型実験を実施し、流入口の位置・幅・高さやスリット構造など、形状を変えながら、より高い捕捉率が得られる形状や配置とすることができた。

流木捕捉施設完成後には、インフラツーリズムの推進を図るため、AR（拡張現実）技術を活用し、洪水時に流木を捕捉する様子をCG映像で見られるデジタルコンテンツを作成した。今後は、小中学生を対象とした防災学習の場などを通じて活用していく。



流木捕捉施設全景

4. おわりに

本事業の実施に当たり、地域の皆さまにご理解とご協力を賜ったこと、また、地元建設業者をはじめ、工事受注者の皆さまにご尽力いただいたことに、この場をお借りして感謝を申し上げます。

賛助会員 (株)中村建設、東日本コンクリート(株)、(株)日本ビーエス、昭和コンクリート工業(株)、樋下建設(株)、蒲野建設(株)、(株)畑中組、三陸土建(株)